

第3回 都立競技施設整備に関する諮問会議

日時 平成28年6月28日(火)

18:00～19:35

場所 都庁第一本庁舎 42階北塔

特別会議室A

午後6時00分 開会

1 開 会

○根本大会施設部長 本日は大変お忙しいところ、先週に引き続きましてお集まりをいただきまして、まことにありがとうございます。ただいまから、第3回都立競技施設整備に関する諮問会議を開催させていただきたいと存じます。

前回に引き続き、議事に入りますまでの間、司会を担当させていただきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは会議に先立ちまして、副知事の山本より一言挨拶を申し上げます。

あいさつ【副知事】

○山本副知事 副知事の山本でございます。

委員の皆様方には、御多用中のところ、先週に引き続きまして、また遅い時間にお集まりいただきまして、まことにありがとうございます。

本日は、大井ホッケー競技場、有明テニスの森、カヌー・スラローム会場及び夢の島公園のアーチェリー会場の基本設計等の検討状況について御説明をさせていただきたいと思っております。

先週に引き続きまして忌憚のない御意見をいただければと考えておりますので、本日もどうぞよろしくお願い申し上げます。

○根本大会施設部長 ありがとうございます。

委員紹介等

○根本大会施設部長 続きまして、本日の御出席の委員でございますが、前回に引き続き7名全員に御出席をいただいております。

続きまして都側の局長級出席者でございますが、今回は建設局が出席をしております。

建設局長の佐野でございます。

道路監の西倉でございます。

資料確認

○根本大会施設部長 報告事項に移る前に配付資料の確認をさせていただきたいと存じます。本日お手元にお配りしております資料は、次第に記載のとおり、資料1から資料3 - 4まで、それから座席表となっております。

それと、お手元に新しいエンブレムのピンバッジもお配りをさせていただいております。どうぞ御利用いただければと存じます。

それから、今回、会議室が前回と違いまして、マイクについての御案内をさせていただきたいと思います。御発言をいただく際は、目の前にあります装置の赤いスイッチをオンにいただけますようお願いいたします。お手数ですけれども、ほかのマイクとの干渉を防ぐため、発言の都度スイッチのオン、オフをお願いできればと考えております。どうぞよろしくようお願いいたします。

それでは、ここからの進行は座長の橋本先生をお願いしたいと存じます。座長、よろしくようお願いいたします

2 報告事項

(1) 新規恒久施設に係る後利用の方向性等

○橋本座長 それでは、議事に従いまして、報告事項について事務局より説明をお願いいたします。

○鈴木開設準備担当部長 開設準備担当の鈴木でございます。

それでは、お手元の資料2「新規恒久施設に係る後利用の方向性等」を御覧ください。

前回6月24日の会議で御説明をさせていただきましたが、東京都が新たに整備をいたします競技施設のうち、大会後の後利用について先行して検討を進めてまいりましたオリンピックアクアティクスセンター、海の森水上競技場、有明アリーナ、カヌー・スラローム会場の4施設につきましては、先月「施設運営計画（中間のまとめ）」を公表しております。残り的大井ホッケー競技場、アーチェリー会場の2つの施設につきましては、現在施設運営計画の取りまとめに向けて検討を進めているところでございます。

本日の議題のうち、新規恒久施設であります大井ホッケー競技場、カヌー・スラローム

会場、アーチェリー会場の3施設について、後利用の考え方を御説明させていただきますが、ただいま申し上げましたとおり施設によって検討の進みぐあいが異なりますので、あらかじめ御了承いただけますようお願いを申し上げます。

それでは、資料の2ページを御覧ください。

大井ホッケー競技場ですが、昨年11月に公表いたしました後利用の方向性について御説明をさせていただきます。

後利用について、3つ視点がございます。

1点目は、全国でも数少ない国際基準を満たすホッケー競技場として、ホッケーの国際大会から日常的な都民利用までを視野に入れたホッケーの振興拠点としてまいります。

2点目は、各種競技の普及強化の拠点としまして、ホッケーはもとよりサッカーをはじめさまざまな競技での利用も可能な多目的人工芝競技場として活用してまいります。

3点目は、スポーツ施設と公園機能が融合した「総合的なスポーツ・レクリエーションの拠点」としてまいります。テニスコート、野球場などさまざまなスポーツ施設を有し、自然に親しめる大井ふ頭中央海浜公園内に整備いたしますことから、公園全体としての魅力を高め、多くの都民に親しまれ、にぎわいのあるものとなるよう検討を進めてまいります。

次に3ページをお開きください。カヌー・スラローム会場につきましては、先月公表いたしました「施設運営計画（中間のまとめ）」の概要を御説明させていただきます。

まず施設の位置づけでございますが、カヌーのほかラフティングなど、さまざまな水上スポーツが楽しめるレジャー・レクリエーション施設、また葛西臨海公園など周辺施設と一体的な活用を図りまして、新たなにぎわいの拠点としてまいります。

次に運営の基本方針及び主な事業内容でございますが、第1に国内初の人工スラロームコースとして、国内外の主要大会の開催、選手の強化育成、カヌー教室など、さまざまな水上スポーツの機会を提供してまいります。

第2に、ラフティング体験などの水上レクリエーションのほか、水難救助訓練、企業研修など、多様な活用を進めてまいります。

第3に、葛西臨海公園など、周辺施設や地元区と一体となってにぎわいを創出してまいります。

その下の周辺地域との連携ですが、水族館、観覧車、ホテル、人工なぎさなど、公園のさまざまな資源を生かした一体的な活用を検討してまいります。

資料の右側、年間利用イメージでございますが、スラロームコースでは、国内外の競技大会とともに、夏場を中心にラフティング等のレクリエーション利用を進めてまいります。また、秋、冬につきましても、消防関係者などによります水難救助訓練の場としても活用してまいります。またフィニッシュエリアは、カヌー教室や水上遊具などのレクリエーションで活用してまいります。さらに周辺の公園と連携して、例えばカヌー体験と植物や野鳥の観察会などを組み合わせたアウトドア教室の実施などを検討してまいります。

資料右下の年間来場者目標ですが、競技利用やレクリエーション利用等で約10万人を目標としてございます。

次に4ページを御覧ください。アーチェリー会場につきましては、今後、後利用の具体策を検討してまいりますので、昨年6月に公表しました後利用の方向性の概略のみを説明させていただきます。

後利用の方向性といたしまして、アーチェリーを中心に、都民・公園利用者に対し、さまざまなスポーツの機会を提供する施設としてまいります。

大会後の利用方法として、主要な競技大会の会場、そしてアーチェリーの普及・強化の拠点として活用してまいります。またアーチェリーを中心としながら、そのほかの多様な活用につきましても検討を進めてまいります。

簡単ではございますが、説明は以上でございます。

○橋本座長 ありがとうございます。

3 議 事

基本設計等の検討状況について

○橋本座長 それでは、議事に入らせていただきたいと思います。

基本設計の検討状況についてでございますが、初めに、大井ホッケー競技場と有明テニスの森の基本設計等の検討状況について一括して説明及び質疑・応答を行い、次にカヌー・スラローム会場とアーチェリー会場の基本設計等の検討状況について一括して説明及び質疑・応答を行いたいと思います。

(1) 大井ホッケー競技場

(2) 有明テニスの森

○橋本座長 まず、大井ホッケー競技場と有明テニスの森について、財務局から御説明をお願いいたします。

○草野オリパラ施設整備担当部長 財務局オリンピック・パラリンピック施設整備担当をしております草野でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、2つの施設について説明をさせていただきます。その前に1つ口頭にて御紹介をさせていただきたいことがありますので、申し上げます。

まずは、これは基本設計でございますけれども、この基本設計者の選定に当たりまして、大井ホッケー競技場及び有明テニスの森の基本設計者につきましては、公募のプロポーザル方式により選定をしているところでございます。本諮問会議の深尾委員におかれましては、この際、外部の有識者委員の一人として御参加をいただきましたので、その経緯についてまず御説明をさせていただきます。

それでは、大井ホッケー競技場について説明をさせていただきます。資料3-1を御覧ください。

大井ホッケー競技場につきましては、大会時は、メインピッチとサブピッチとの2つのピッチを有するホッケーの競技会場とされる施設でございます。

まず1ページを御覧ください。

左下の図に示しますように、最寄り駅は東京モノレールの大井競馬場前駅でございます。計画地は、そこから徒歩8分ほどの位置にある大井ふ頭中央海浜公園（スポーツの森）の中にございます。

配置につきましては、右下の現状との重ね図に示しますように、北側、図の左側になりますけれども、こちらの第一球技場等の位置にメインピッチを新設しますとともに、南側、図の右側のほうの第二球技場を改修しまして、サブピッチを整備いたします。

施設規模につきましては、メインピッチは2,600席で、大会時は仮設スタンドを含めまして1万席を、サブピッチにつきましては現状約500席に、大会時は仮設スタンドを含めまして5,000席を整備する計画でございます。

また、先ほどお示しましたように、大会後は、「都内有数の多目的な人工芝の競技場として、ホッケーその他の競技の拠点とする」ということを、後利用の方向性として示しているところでございます。

2ページを御覧ください。

基本設計に当たりましては、表の左側にありますとおり、質の高い競技施設の整備、良好な観覧環境、大会後の利用計画など5つの設計ポイントを設定し、設計作業を進めてきたところでございます。

表の右側に、それらに対する対応を記載してございますが、次ページ以降の資料で個別に説明をさせていただきます。

3ページを御覧ください。メインピッチの配置計画等でございます。

図の上方向が北でございます。上、北側に陸上競技場、左、西側に公園内のメインストリート、下、南側に野球場がある中で、その真ん中にメインピッチが配置されます。

ピンクに着色されましたメインスタンドにつきましては、駅最寄りのメインとなります公園出入り口からの来場者、図の左上からの流れになりますけれども、これを踏まえまして、公園のにぎわいの創出ですとか、既存樹木の活用などの視点から配置を計画しております。

また、競技ピッチにつきましては、大会後のさまざまな競技での利用を想定しまして、ホッケーだけではなく、人工芝の利用が見込まれる競技で最大のラグビーピッチが確保できるスペースを想定いたしました。競技ピッチの北側、東側、南側の3面につきましては、大会時の仮設スタンドを設置するスペースとなりますけれども、大会後は、既存樹木を考慮しました散策や休憩のスペース、国内大会用のウォームアップ・コートなどを想定しております。

4ページを御覧ください。メインスタンドの各階平面図でございます。

2階、3階に2,600席の観客席を設けまして、その下部の1階に更衣室、事務室、機械室等の諸室を配置しております。観客につきましては、2階をメインアプローチとし、選手、スタッフは1階からのアプローチとしております。1階の複合用途諸室につきましては、大会後の後利用も考慮し、屋外施設との連携も可能となるような配置、しつらえとしております。

また、アクセシビリティにつきましては、右側の図のように、サイトラインを踏まえた車いす席スペースや車いす使用者以外の障害者等に配慮した付加アメニティ席スペースの確保、配置のほか、トイレの機能分散についても十分に考慮してまいります。

設備関係につきましては、口頭にて主なものを説明させていただきます。

環境への配慮として、省エネ性の高い高効率機器の採用に加えまして、太陽光発電設備や雨水利用設備を導入することとしております。

また、ホッケー競技場という施設の特性上、やけど防止ですとかボールスピードの向上のために、試合開始前とハーフタイム時にピッチに散水を行う必要があることから、散水設備を設置することとしております。

続きまして、5ページを御覧ください。

人工芝を有します既存の球技場を改修しまして整備するものでございます。この施設は、平成8年のオープンでございまして、しゅん功後20年を経過していることから、内外装及び設備、フィールド等の全面改修に加えまして、アクセシビリティ確保のためにエレベーターを増設することとしております。また、既存の観客席は約500席でありまして、ピッチを囲む西側、北側、東側の3面に仮設スタンドを設置しまして、大会時には5,000席の競技場とする計画でございます。

設備関係につきましては、メインピッチと同様の整備を基本としますが、改修でありますことから、継続使用可能な機器等につきましては再利用も考慮してまいりたいと考えております。

以上が大井ホッケー競技場の説明でございます。

続きまして、有明テニスの森について御説明いたします。資料3-2を御覧ください。

有明テニスの森につきましては、オリンピックにおいてはテニス、パラリンピックにおきましては車いすテニスの競技会場とされる施設でございます。

1ページを御覧ください。

左下の位置図に示しますように、最寄り駅は、りんかい線国際展示場駅、ゆりかもめ有明テニスの森駅などございまして、そこから徒歩5分ないしは10分程度の位置にございます。

右側の図に示しますように、敷地の北側に共同住宅、西側に江東区の有明スポーツセンター及び有明清掃工場、南側に首都高湾岸線及びオフィスビルがございまして。また、東側につきましては空き地でございますが、共同住宅ですとかオフィスビルなどの建設計画が進められているところでございます。

施設は、有明コロシアムを含めまして、テニスコート49面とクラブハウスを有しているところでございます。昭和58年に開園しましたこれらの施設を改修、再整備するというものでございます。

2ページを御覧ください。

基本設計に当たりましては、表の左側にありますように、質の高い競技施設の整備、良

好な観覧環境、大会後の利用計画など、先ほどと同様に5つの設計ポイントを設定しまして、設計作業を進めてきたところでございます。

表の右側に、同じように対応を示してございますが、次ページ以降の資料で個別に説明をさせていただきます。

3ページを御覧ください。大会時の配置計画でございます。

中央の青色に着色しました、下からショーコート1及びショーコート2と、その左側の黄色に着色したクラブハウスを併設しましたインドアコートを新設いたします。

ショーコート1は、恒設3,000席に仮設2,000席を合わせまして、5,000席といたします。恒設部分の観客席の下部の1階には、屋外コート利用者のための更衣室あるいは競技大会用の運営諸室となる会議室等を設置いたします。

また、ショーコート2につきましては、仮設3,000席としております。

屋外コートにつきましては、大会基準に適合させるため、有明コロシアムのセンターコートと同じ方位に設定した上で、客だまりなどのスペースを考慮して、試合用10面と練習用16面の合計26面を整備いたします。また、インドアコートにつきましては8面とすることとしております。

有明コロシアムにつきましては、招致決定以前に東京都の主要施設の維持更新計画に位置づけられた施設でございまして、大規模改修計画に基づいて、内外装や設備機器等の全面改修、バリアフリー改修、可動屋根の改修などを実施するものでございます。

4ページを御覧ください。大会後の配置計画でございます。

大会後は、大会時の屋外コートと運営スペースを活用しまして、有明コロシアムを含め、既存コート数49面を確保するよう再整備いたします。

また、仮設のショーコート2につきましては、大会後に撤去し、芝生広場として復旧する予定でございますけれども、ショーコート2の具体的な設置位置につきましては、現在、国際競技団体と調整を行っているところでございます。

5ページを御覧ください。まちづくりの対応についてでございます。

このエリアは、有明北地区まちづくりマスタープランやガイドラインによる開発方針が定められております。今回の整備に当たりましては、これらの方針に準拠し、図中に示します①から⑤におきまして、下の箱書きにあるように、緑や歩行空間等に配慮した対応を行ってまいります。

6ページを御覧ください。インドアコートの平面図及び断面図でございます。

同じ施設内に、更衣室やレストランなどのクラブハウス機能を併設しております。インドアコートにつきましては、内装に加えて屋根を木構造とするなど、木材利用を図ってまいります。

設備関係につきましては、口頭で主なものを説明させていただきます。

省エネ性の高い高効率機器の採用に加えまして、太陽光発電設備、太陽熱利用設備、氷蓄熱空冷ヒートポンプマルチエアコン、雨水や隣接の有明水再生センターの処理水を利用しました雑用水設備を導入することとしております。

7ページを御覧ください。大会後のショーコート1の平面図及び断面図でございます。

観客席の下部には、先ほど御説明したとおり、更衣室や会議室等を設置いたします。また、アクセシビリティにつきましては、右側の図のように、サイトラインを踏まえまして、車いすスペースや、車いす使用者以外の障害者等に配慮しました付加アメニティ席スペースの確保、配置のほか、トイレの機能分散についても十分に考慮してまいります。

最後に8ページを御覧ください。大会後の上空から見たイメージ図でございます。

説明は以上でございます。

○橋本座長 そんなに厳密に分けるつもりはありませんけれども、順番を大井ホッケー競技場のほうからということで、大まかということで御理解いただいて、御質問、御意見等ありましたらお願いいたします。何かございませんでしょうか。

○増田委員 御説明ありがとうございました。大井ホッケー競技場については、大会後の利用に関してもサッカーですとかフットサル、ラクロスということで、さまざまな競技利用があるわけですね。また、ここはパラリンピックの会場とはなっていませんけれども、大会が終わった後に、例えばブラインドサッカーなども行われる会場になると思うのですけれども、そういう中で、どのぐらい現場の声を聞いていらっしゃるのかということ。前回の海の森水上競技場のときも同じことを申し上げたのですけれども、障害者の方の声を聞いているとか、またサッカー関係者とかラクロス協会の方とか、そういう方の声を参考にしていますというようなことを、何か明記といいますか、教えていただいた方が、安心して見るができると思います。

○橋本座長 今の点、いかがでしょうか。

○小野寺施設整備担当部長 前回も、競技者の方々あるいは障害をお持ちの方々などからの御意見をいただいていますということを御報告しましたけれども、今日の案件につきましては基本設計をようやくまとめようとしている状況でございます。障害者等の方々か

らは前回の先行の3施設と同じような意見を少し踏まえてございますけれども、ホッケーの競技者の団体等からは意見をいただいておりますが、そのほかについてはこれからまたいろんな方々からお話を伺っていききたいというふうに思っていますので、今の段階ではいろいろな方々からまだお話を伺っているという状況ではございませんので、今後対応していきたいと思っております。

○増田委員 規模は全然違うのですが、函館アリーナが去年オープンされたときに見学してきましたら、ランニングコースの周りにも手すりがついていました。視覚障害者の路面、床などにも、視覚障害者のためだけでしたら点字ブロックなのですが、全盲の島さんという方の意見を多く取り入れていますので、視覚障害者だけではなくて、例えば妊婦さんにはこれがいいたろうとか、本当に細部にわたって利用者の気持が酌まれているようなつくりになっていて感動したのですね。私は、いかにそういう声を最初の段階で聞くことが大事かということを感じたものですから、そういうところにこだわってしまって、ちょっとしつこいようで申しわけありません。ありがとうございます。

○橋本座長 ほかに。お願いします。

○射場本委員 競技の時間帯にもよると思うのですが、仮設のスタンドも含めて、屋外での日射遮蔽をどのように考えておられるのでしょうか。夜間照明がついていますから、夜の競技だったら話はわかるのですが、昼間の競技だと相当きつい状況になると思うので、教えていただければと思います。

○橋本座長 お願いします。

○小野寺施設整備担当部長 競技時間については、オリンピックの競技時間については、今後調整をしていくところでして、まだ決まっておられませんけれども、今メインピッチ等についても屋根は設置する方向で考えてございます。

サブピッチのほうの改修する棟にも既存で屋根はついておりますので、一定の観客への日射の対応はできるかなと思っております。また競技時間等も含めながら考えていきたいと思っております。

○橋本座長 射場本先生、よろしゅうございますか。

○射場本委員 はい、結構でございます。

○橋本座長 ほかに御意見、御質問ある方いらっしゃいませんか。

岸井先生、いかがですか。

○岸井委員 いわゆる表示板というものは、今回はつくりたくないのでしょうか。時計や選手

の名前のボードが出たりするというような、そういうメッセージボードはどこにつくるのでしょうか。

○橋本座長 お願いします。

○小野寺施設整備担当部長 今、図面等には落としておりませんが、当然ながら競技をやっている最中に得点の経過ですとか、時計の掲示なども必要だと思いますので、そういう対応は設計の中で対応するように考えてございます。

既存施設についても、今そういう掲示機能のものがあるのですけれども、そこは現況新しいものに取りかえていくようなことが必要かなと考えてございます。図面には記載がなくて申しわけございません。

○橋本座長 岸井先生、よろしいですか。こういうふうにしたほうがいいのか、そういうのはございませんか。

○岸井委員 前回もちょっとお話ししましたが、せっかくいいものをつくられるので、情報系の方に少し御意見を聞いていただいて、しっかりとしたサービスができるようにしておくほうがいいのかと思うのです。よろしくお願ひしたいと思います。

○小野寺施設整備担当部長 御指摘の点は非常に参考になるお話でございまして、今後行っていきたいと思っております。

いろいろな利用、多目的な得点表示みたいな、そういったものをスタンド側のほうにつけていくと考えておりますので、そういう機種選定みたいなものだとか表示する内容などについては、またそういう専門の方からの意見も聞いてみたいと思います。

○橋本座長 ほかに。工藤先生。

○工藤委員 聞き逃したかもしれないのですが、今回のピッチは人工芝なのですよ。ここに質の高い競技施設の整備ということで「IF基準への適合」と書いてあるのですが、人工芝のピッチは私も経験がありますが、日進月歩していて、いろいろな基準があると思います。その後、サッカーとかいろいろお話が出ていますが、どういう基準で適合というか、質の高いという基準を決めておられるのか。あるいはホッケーが終わった後、もう少し万能な人工芝に替える予定があるのか。そのあたりどういうふうにお考えになっているのかお伺ひしたいです。

○小野寺施設整備担当部長 今ホッケーの競技場を整備するのがオリンピックに向けてのミッションでありまして、ホッケーの国際競技団体と今協議をしております、競技団体のほうからは人工芝の基準が明確に定められております。それからサプライヤーと申しま

して、人工芝をつくっているメーカーとも打ち合わせをこれから始めていくところですので、そういった中で基準にのっとったものをつくるような形になってまいります。

基準がどういうものかというのは、ここで詳細にお話しするのはちょっとしにくいのですが、まずはホッケーの整備の基準のものを把握して、それでやっていくことになります。

○工藤委員 このあたりが結構面倒というか、多分サッカーはサッカーのベストという人工芝があって、陸上系は陸上、野球は野球、結構競技団体によって違うのですね。それは、滑り込んだときにけがをすとか、あるいは器具が使いやすいとか何かあるようなので、オリンピック時は当然これでしょうけれども、将来計画として少しその辺も押さえておかれた方がいいし、夏場の試合は質の悪いものを使ってしまうとやけどをするというのもあるから、ぜひ入念に、頑張ってくださいだと思います。

○橋本座長 ありがとうございます。あと、深尾先生、補足説明かもしれませんが。

○深尾委員 私が伺っている範囲では、ホッケー用の芝というのは相当特殊で短くて、水を含めて、私の理解では、その後マルチユースのために替えるのだと思うのですが、一方で最初に御説明があったホッケーの聖地にしたいということとの間がものすごく調整が難しそうなので、ともかくオリンピックに合わせてはこれをやるけれども、その後利用については相当今後も知恵を絞っていただいて、考えていただくようなことが必要かなと、感想みたいなものですが、そのように思います。

○鈴木開設準備担当部長 その後利用に関してですが、ホッケーはショートパイルのウォーターベースということで、非常に特殊な芝になります。一方、後利用でサッカー等を行うときにはロングパイルが好まれるということもございますので、メインピッチ、サブピッチ2つございますので、その使い分けも含めて、今後、後利用に向けてどういう形がベストなのかという検討はしていきたいと考えております。

○橋本座長 よろしく申し上げます。

それでは、次に有明テニスの森のほうに行きたいのですが、また戻っても一向に構いませんので、とりあえず順番としては、有明テニスの森について御質問、御意見等をお願いしたいと思います。どなたかございませんでしょうか。こちらのほうが、いろいろありそうな気はするのですが、工藤先生、いかがですか。

○工藤委員 先ほども同様だったので言えばよかったのですが、ショーコートで、

木材を使ってテントと組み合わせるとするのは非常にいいなと思ってまして、今回の敷地全体がどこも人工的ではありますが、自然環境がこの30年、40年の間に育った場所ですので、極力そういった環境に対して配慮した施設にしてほしいなという思いがあります。

特に、一つ戻りますけれども、ホッケー場のあたりは実は東京都の野鳥公園があって、私はよく行くところでして、この近くに住んでいたこともあるのでよくわかるのですが、周辺の公園にも鳥はたくさんいて、羽田に近いのですが非常に自然に恵まれているいい場所だと思うのです。ですから、そういったところへの配慮というのが建築の上屋にももっと出てきてほしいし、このテニスコートも木材を使うということでもいいのではないかなと思っています。

○橋本座長 射場本先生、いかがですか。

○射場本委員 有明テニスの森のコロシウムは今回も使われるわけですね。リニューアルに近い話のようですが、過去のデータは結構残っているのですか。それを活用していくのがリニューアルの、ある意味では特権に近いような話ですので、せっかくあるなら生かしていかれるほうがいいなという気がいたします。

○橋本座長 その点はいかがでしょう。

○草野オリパラ施設整備担当部長 改修の履歴とかではなくて、実際の運用のということです。

○射場本委員 先ほど、省エネルギーだとか環境配慮とか言われておりますので、過去の使われ方、もう何十年か使われているわけですからそのデータ等がおありで、例えば電気料金はどうなっているとかいうのは既にあるわけですので、そういったものを含めてぜひ今度のリニューアルのときに生かしていただければありがたいと思います。

○草野オリパラ施設整備担当部長 今御指摘のような過去のデータにつきましては、収集をしたものがある程度ございますので、それについてしっかり見ながら今回の改修の内容に反映させていきたいと考えております。

○射場本委員 よろしくお願いたします。

○橋本座長 ほかにございませんでしょうか。清宮先生。

○清宮委員 インドアコート・クラブハウス新設とのことですが、その使用目的は多分雨天か何かで利用するような形か練習コートだと思います。それを見たとき、6ページ目にインドアコートの中のいろんな配置が書いてありますが、例えば観客エリアというのはこ

ういう狭いところに人に立ち見かなんかで見させるということになるようですが、幅がどのぐらいになるか、ちょっとイメージがつかめないのですけれども。

○橋本座長 お願いします。

○小野寺施設整備担当部長 オリンピック時は、インドアコートは基本的には試合では使わない部分になっていまして、使うとすれば練習ということになります。試合は、今ここでは考えてございません。ですので、オリンピック時の観客というのは想定しておりません。

○清宮委員 練習を見に来る人用というエリアですか。

○小野寺施設整備担当部長 練習をいろいろな方に見せるかどうかというのはセキュリティの関係がございますので、その辺はまだ定かでないのですけれども、大会の試合ということでは使っていないのと、それから大会後の平時の利用としては、ここは練習ですとか、そのほかイベントみたいなこともやるのではないかなと思いますので、その際は、2階の真ん中に通路幅みたいなのところがありますけれども、そういうところからのぞけるような形にはなるのですが、実際の運用は、そのときに相談しながらやっていくのかなと思います。

○清宮委員 はい、わかりました。

それから、ショーコート1、2をつくるのですけれども、これは夜でも試合できるようなコートにするのでしょうか。照明施設のことはどこか書いてあるかどうかわからなかったのですけれども、夕方、日没とともに終わりということでしょうか。

○橋本座長 いかがでしょうか。

○草野オリパラ施設整備担当部長 照明につきましては予定をしておりますので、夜間についても使えます。

○清宮委員 日没エンドということはないという。

○草野オリパラ施設整備担当部長 そうですね。

○清宮委員 はい、わかりました。

○橋本座長 ほかにいかがでしょうか。

○深尾委員 有明コロシアムは可動屋根がついているものですから、改修も大変困難な工事なのだと思います。それについていろいろ御苦労されているとは思いますが、前回も申し上げましたけれども、今度こういうことをオリンピックに向けてやるということ、都民の方、国民の方になるべく丁寧に広報していくことが大切だと私は思っています。さ

らにこのオリンピックに向けて、もうその間ずっとこれ使わないわけではなくて、有明コロシアムというのはテニスの聖地ですからずっと使うのだと思うので、そういうことからしても、こういう計画をしていますということをぜひとも広く広報していただきたい、これは希望ですけれども。

そのときに、この図面を見せていただくと、鳥瞰図、パース、上から見た絵がたくさんあるのですけれども、こういう緑の多いところで都民からすると非常に低い目線から建物がどう見えるかということが大切かと思うので、そういうことも含めて今後こういうふうになりますよという広報をぜひお願いしたいと思います。

その点からすると、既存の有明コロシアムのほうは、修繕、改修ということになるわけですが、その時代のデザインの建物になっていて、今見ても余り素敵ない感じはしないのですね。そういうことも含めて、これから実施設計にも入っていくとなると、魅力的な建築になるように、ぜひ努力をしていただきたいと思います。その辺が、今日の資料では全く伏せられている形なので、よろしくお願いします。

○橋本座長 今の点、補足で御説明ありますか。

○小野寺施設整備担当部長 コロシアムのほうについては、資料記載にあるように、これまでも既存の施設の維持、改修工事ということで、計画を東京都でつくってございまして、その一環として今回も改修していくわけですけれども、これまでも既存施設の改修に当たってはその設備のリニューアルということも考えておりますので、デザインについてどこまでリニューアルできるかちょっとわかりませんが、御指摘のようなことについては努力していきたいと思います。

○橋本座長 ほかに、先生方がいかがでしょうか。増田先生。

○増田委員 5ページの「まちづくりのガイドラインへの対応」のところなのですが、本当にこういうふうになればいいというぐらい緑が豊かで、湾岸地区はこれからどんどん人口もふえていくと思うのです。その中で、東京オリンピック・パラリンピックが終わった後に、東京都が目標としている都民の運動習慣で1週間に1回が7割という、そういう習慣がレガシーとして残ればいいという目標を掲げている中で、やはり環境は大事だと思うのです。緑の多さに加えて、路面、特に御高齢の方々は、歩く道がどういう道か、ウッドチップですとかやわらかいところというのは、やはりいざなわれますよね。

あと私がいろいろなところに行って思うのは、やわらかいゴムみたいなものも、公園の中に短い距離でもあると、本当に優しいクッションのような感じで、あそこに行って歩こ

うかなという気持ちにもなります。一番手ごろにできる運動というのがウォーキングですので、そういう路面なども意識して、つくっていただけたらうれしいなというふうに思います。

○橋本座長 ありがとうございます。その辺のところも配慮して、よろしく願いしたいと思います。

○小野寺施設整備担当部長 はい。実施設計の中で、しっかりそのようなところにも気を配りながら進めてまいります。ありがとうございます。

○橋本座長 岸井先生。

○岸井委員 この会場にはかなりの観客がお越しになるのではないかと思います。最後のイメージ図を見ていると、駅から来るデッキの取りつけ方については何も改修しないということでしょうか。

○橋本座長 いかがでしょうか。

○小野寺施設整備担当部長 まさにそこは検討課題でありまして、敷地の内外ということもありまして、今まさに検討中でございます。

○岸井委員 観客動線として、ゆりかもめの有明テニスの森駅を使って来てもらうということにはなっているようですが、りんかい線の国際展示場駅から来てしまう人もいらっしゃる。そうするとテニスのセキュリティをとりつつ、テニス以外の観客も誘導しつつ、となります。テニスの観客が一気にお越しになると、ちょっと大丈夫かな、サービス水準として足りるのかなという懸念があるので、動線はぜひちゃんと確認をしていただいて、この施設の補強が要るかどうかを御検討いただきたいと思います。

○橋本座長 その辺もいろいろな設備の関係があると思いますので、連携をとった上での配慮をしていただければと思います。工藤先生。

○工藤委員 全体の施設について、前回も思っていましたけれども、いろいろなオリンピック施設の跡を訪ねていったときに、メモリアルというか、そこでオリンピックがあったというものがそれぞれ何かあるのですね。東京都がどうされるか。例えばその後、オリンピックがあったコロシアムに行ってテニスをするというとき、どこかで写真を撮ることもあるかと思います。ばらばらではなくて、すごく素敵なデザインで、必ず写真は撮りたいと思えるような、素敵な場所をちゃんとお金をかけてつくるということをお願いしたい。どうしてもこういう大きな施設は大きなお金が動く全体にばらまくのですけれども、ではなくて、どこかに集約したようなところをきちんと残すことも大切、それが共通デザイ

ンであるということが大切ですね。

それは物として残すのか、例えばウィンブルドンだと、ウィンブルドンの正面ゲートのところにはすごく美しい花が今生けられています。白とグリーンと紫の。つまり、そこに来たお客さんは絶対そのお花のところでは写真を撮ります。そういう場所がそれぞれのスポーツ施設に、テニスも含めてあるといいなと思いました。

○橋本座長 ありがとうございます。レガシーというのが大事だということになっていますので、あそこの会場へ行ってきたぞと後の人も言えるようなものがあると、確かに非常にいいような気がいたします。ほかに先生方、いかがでしょうか。

○小野寺施設整備担当部長 今のお話で、非常にいいサゼスチョンをいただいたなと思っております。私もウィンブルドンへ行ってまいりましたが、あそこでは施設の見学ツアーというものが組まれておりまして、大会後に限らず、こういう施設でこんな試合がやられた。過去にこんな名選手がいて、何回のチャンピオンになったとか、そういうようなコーナーもあったりするのですけれども、オリンピック東京大会においても、そのようなレガシーという議論もあるのかなと思いますし、全部施設で対応することが全てではないと思いますけれども、今いただいたようなサゼスチョンを受けとめて、今後検討に生かしていきたいと思えます。

○橋本座長 大井ホッケー競技場と有明テニスの森ということで、お話を伺いましたけれども、まとめて岸井先生。

○岸井委員 もう一点だけすみません。大井ホッケー競技場では観客動線と選手の動線を分けるという話がしっかり書いてあったのですけれども、有明テニスの森ではどうされるのですか。プレーヤーと観客動線は明確にどこかで分かれていますでしょうか。

○小野寺施設整備担当部長 基本的にどの会場も同じ考え方なのですけれども、観客の動線と選手あるいは大会関係者との動線は明確に分けるというのが基本でありますので、有明テニスの森についても同じような考え方で整理をしてまいります。それは大会組織委員会のほうと連携してやっていくこととなります。

○橋本座長 それでは、この2つの施設については、それぞれの御専門の立場から御意見を伺いました。

(3) カヌー・スラローム会場

(4) アーチェリー会場（夢の島公園）

○橋本座長 次に、カヌー・スラローム会場とアーチェリー会場について、建設局から説明をお願いいたします。

○五十嵐公園緑地部長 建設局公園緑地部長の五十嵐でございます。それでは、まずカヌー・スラローム会場から説明をさせていただきます。

カヌー・スラローム会場の計画地は、江戸川区の最南端にございます葛西臨海公園に隣接している、東京都下水道局が所有する土地で、最寄り駅はJR京葉線の葛西臨海公園駅でございます。右下は、会場のイメージ図です。

カヌー・スラローム競技は、河川に設定したコースにおいて、上流からスタートし、途中に設けられたゲートを順番に通過して、下流のゴールに至るまでの時間を競う競技でございます。東京2020大会では、今回計画地に国内発となる人工カヌー・スラローム会場を整備することとしております。整備いたします施設は、競技コース約200m、ウォーミングアップコース約180m、附帯設備としてフィニッシュプールやポンプ設備等がございます。また、大会時の観客席は仮設で15,000席の予定です。

大会後の利用の方針といたしましては、カヌー・スラローム会場を利用してラフティング等も楽しめる、周辺の公園や水域と一体となったレジャー・レクリエーション施設としていくこととしております。

2ページを御覧ください。カヌー・スラローム競技会場の基本設計のポイントは4つございます。

1つ目は、質の高い競技施設を整備することでございます。国際・国内大会の開催や、競技者の強化・育成の拠点とするため、国際競技連盟の基準に適合した施設を計画し、艇庫や更衣室等を備えた管理棟も整備いたします。

2つ目は、レガシー委員会やアドバイザー会議の意見、周辺施設と連携した大会後の利用を計画することでございます。具体的には、国際・国内競技大会の開催や、競技の強化、普及の拠点とするほか、隣接する葛西臨海公園、海浜公園との一体的な活用に配慮し、都民のレジャー・レクリエーションの場としての利用を考えております。

3つ目は、効率のよい設備設計や木材の利用など、環境にも配慮することでございます。例えばポンプ施設の合理化や管理棟の内装の木質化などを図ってまいります。コース内の水質を維持するろ過施設については、競技に求められる適切な水質を維持する効率的なものいたします。

4つ目は、コストでございます。経済性が高い施設配置や構造の比較を行い、インシヤルコスト、ランニングコストの両面で検討いたします。

3ページを御覧ください。このパースは大会時の施設配置のイメージでございます。

観客スタンドの下の水路が競技コースで、長さ約200m、平均幅約10mとなっております。右上にありますスタートプールから競技者はコースを下っていきます。コースの途中には通過点となるゲート施設を設置いたします。

図の左側の建物は、艇庫や更衣室が入った管理棟でございます。選手はその前の水面からカヌーに乗り込み、ウォーミングアップコースで練習した後、フィニッシュプールを通過し、ボートコンベアに乗ってスタートプールにまで上がります。スタートプールとフィニッシュプールは水位差があり、ポンプにより水をくみ上げます。あわせて、その隣にコースの水質を維持するろ過施設を配置しております。競技コースに沿って配置される観客席は仮設となる予定でございます。

4ページを御覧ください。コースのレイアウトにつきましては、IFやNF等の競技団体と協議をしながら基本設計を進めてまいりました。

今回のコースの特徴を申し上げます。競技コースは、縦断面のようにフィニッシュに向かって約2%の下り勾配となっており、コースの幅は12mで、水深は1.5mを確保しております。コースを直線状にすることにより、省スペース化を図るとともに、右きき、左ききによる不利、有利がなくなるものと考えております。また、競技の技術的難度を確保するため、流れに変化をつけることができるように拡張部を3カ所設けております。

過去のロンドン大会などでは、競技コースとウォーミングアップコースはそれぞれ独立した高低差のあるコースを配置しておりましたが、今回の案ではウォーミングアップコースを平坦部に配置し、小型ポンプで水流をつくり出すことといたしました。高低差のある2つのコースを設置する従来のタイプですと、ボートコンベアですとか大型のポンプが2セット必要となりますが、このコースでは1セットで済みます。

また、大会後におきましても、小型ポンプによりまして緩やかな流れを活用した初心者向けのカヌー体験教室ですとか、子供向けのアトラクションなど、幅広い利用にも対応することが可能になります。こうしたコース設定によりまして、コース全体をコンパクト化することが可能になりました。

5ページを御覧ください。施設特性に応じた軟弱地盤対策の案でございます。

計画地は埋立地であり、地下水位が高く、緩い砂層や粘性土層が厚く堆積しているため、

その地盤上に競技コースなどの構造物を整備した場合、地盤沈下が進行する圧密沈下や、地震時には液状化現象が生じる可能性がございます。道路や河川等の土木構造物を設計する際には、国等が定める設計基準に基づき、沈下対策や液状化対策を検討し対策を講じますが、このカヌー・スラローム競技会場につきましては、橋梁や水路などとは異なり、順守すべき設計基準が存在しないため、どの水準まで沈下対策や液状化対策を実施すべきかが大きな課題でございました。

そこで、各施設に求められる要求性能と経済的な側面について検討を進めまして、建築基準法が適用される管理棟や、4 mの高低差を確保し水中ポンプを備えるスタートプールの構造物につきましては、杭による強固な基礎構造といたしました。一方その他の競技コースやフィニッシュプールなどの施設は、沈下対策や液状化対策としての地盤改良等は行わず、多少の変形や損傷が生じた場合でも修繕によってその機能を維持・回復する構造といたしました。このような、構造物の性質に応じ、めりはりをつけて今後の実施設計を進めてまいりたいと考えてございます。

6 ページを御覧ください。ポンプ施設の規模、配置の合理化（案）でございます。

スタートプールに設置するポンプは、同じ条件で競技を行えるように、適切な水流の競技コースとするための重要な施設でございます。そこで、コンピューターによるシミュレーションを行い、1 基当たり毎秒4 m³のポンプを3 基稼働した場合に、適切な流れとなることを確認しております。ポンプの位置やスタートプールの壁面の形状等、さまざまな条件を変えながらシミュレーションを行い、スタートラインで乱れない組み合わせを確認したものが右下の図でございます。また、ウォーミングアップコースも同様に、水流シミュレーションを行い、消費電力が少ない最適な水中ポンプを右上の図のように配置することといたしました。

7 ページを御覧ください。管理棟の整備（案）についてでございます。

管理棟は主に艇庫、更衣室、会議室機能を持つ恒設建物として整備いたします。建物は鉄骨造の2階建てで、延べ面積は約1,500 m²でございます。大会時には競技運営用として、大会後は都民が多目的に利用できる施設を想定しております。

平面図は、大会後の各部屋の配置を模式的に示したものでございます。1階は南側をエントランスとして受付と事務室。その隣にトイレ、シャワー、ロッカーのある更衣室。水面に近い北側に艇庫を配置します。2階は、ラウンジは会議室としておりますが、大会後にはこのスペースはレストランやカフェとしての利用も想定をしております。今後競技団

体との協議や大会後の利用を踏まえて、詳細な設計を進めてまいります。

カヌー・スラローム会場の説明は以上でございます。

引き続き、アーチェリー会場について説明をさせていただきます。

アーチェリー会場の計画地は、江東区の都立夢の島公園内でございます。最寄りの新木場駅から徒歩で7分程度のところです。この会場でオリンピックとパラリンピックのアーチェリー競技が行われます。

アーチェリー会場は予選会場を恒設で、決勝会場を仮設で整備する予定でございます。予選会場は現在すり鉢状の円形広場となっている部分を平坦に整地した後、施設を整備いたします。

決勝会場は、右の写真にあるように、予選会場の左側、西側になりますが、陸上競技場に組織委員会により仮設で整備されることとなっております。ここには約7,000席の観客席も整備される予定でございます。都が行う予選会場の整備に当たりましては、これまで都民に親しまれてきた公園の機能を維持しながら、大会後にはアーチェリーを中心にさまざまなスポーツの機会を都民に提供できる場となるよう検討を進めてまいります。

整備はまず、現在すり鉢状となっております円形広場に盛土工事を実施し、縦130m、横150mの芝生の広場を整備いたします。競技に必要な防矢壁や倉庫等の施設の設計を盛土工事と並行して行います。その後、これらの施設を整備する工事を行い、テストイベントを開催し、東京2020大会までの着実な整備を図ってまいります。

2ページを御覧ください。予選会場、敷地整備についてでございます。

現在の円形広場は、直径102mで、最大約3.5mの深さがあり、芝生で覆われてございます。夢の島公園は埋立地であり、円形広場の地下には軟弱地盤が約50m堆積しているため、盛土の重さで地盤が変状する可能性があります。このため、縦方向の変状を確認する沈下板や横方向の変状を確認する変位杭を円形広場周辺に設置し、変位を観測しながらゆっくと盛土を行い、転圧や養生を繰り返しながら地盤を安定させてまいります。

なお、この盛土方法は軟弱地盤に適しており、発泡スチロールのブロックを盛土材料として使うEPS工法とも呼ばれる軽量盛土工法や、沈下のおそれのある層を改良する工法など、他の工法と比較いたしましても、コストを安価に抑えることができます。

この盛土工事は、平成28年夏から平成29年度中までの工事を予定しております。盛土工事後は平坦な芝生広場となります。

3ページを御覧ください。予選会場の樹木の取り扱いについてでございます。

予選会場を平坦な広場に整備するためには、盛土工事とあわせて予選会場予定地内の樹木の移植等が必要となります。現在予選会場周辺には、健全度の低い樹木やトウネズミモチやニセアカシアなどの外来種が繁茂し、鬱蒼とした状態の樹林が存在をしております。一方で、予選会場周辺にはサクラですとかケヤキなどの大木も存在をしております。外来種ですとか健全でない樹木を伐採するなど、過密状態にある樹木を整理しながら、これらのサクラやケヤキの樹木を丁寧に移植してまいります。

以上のような取り組みで、予選会場となる芝生広場の整備を行いながら、夢の島公園の環境の向上に努めてまいります。

カヌー・スラローム会場及びアーチェリー会場の説明は以上でございます。

○橋本座長 ありがとうございます。

それでは、カヌー・スラローム会場とアーチェリー会場の御説明をいただきましたが、まずカヌー・スラローム会場からいきたいと思います。皆様から御質問や御意見を順次伺いしたいと思います。どなたかいかがでしょうか。

○清宮委員 1ページの大会時のイメージという図では、水路のところに壁が高くあるのですけれども、これは安全上のことでつくられるのか、あるいは水位が上がったときに飛散しないようにつくられるのか、目的がわかりません。この壁がどのぐらいの高さか想像がつかないのですが、将来利用するとき、2mとか1.5mあったら子供はそこには接近できなくて、のぞき込めないと思うのですが、壁で全部覆ってしまうのでしょうか。

○花井施設担当部長 今御質問いただいた、この絵ですと壁みたいに見えるというお話かと思うのですけれども、4ページを画像で映していただけますか。4ページに断面図がございますとおり、壁ということではなくて一体的な構造物で考えてございまして、流れができますので、若干波ですとか水がはねたりしますので、それも踏まえて水深が大体1.5m確保するというところでございますので、それから若干の波ですとか乱流が生じたときに水位が上がりますので、そういうのを踏まえてつくっているということで、壁をつくるというイメージではございません。絵のほうが誤解されるような絵になっているかもしれませんが、そういう意図はございません。

○清宮委員 通常部と拡張部の後ろに地盤面をちょっと描いていただけないでしょうか。地盤面がこの一番天端のところまで来ているのでしょうか。そうすると大会時のイメージの、この1ページの図はこういうふうにならないと思います。

○花井施設担当部長 勾配がついてございますので、切る場所によって高さが変わってご

ざいます。スタートプールのほうが大体地盤面が、おおむねフィニッシュプールより4m高く、それが2%の勾配でずっとフィニッシュに向かって下がっていく形になります。ですので、場所によって地盤面が変わってまいります。

○清宮委員 そうすると1ページ目のは、実際にはイメージが違うという理解でよろしいですか。

○花井施設担当部長 ちょっと見つらくてわかりづらいのですが、ちょうどこのパースの右側の奥で、ちょっと窪んだところがございしますが、その左側がコンベアのところです。こういう形でスロープがついていっているというパースを描いているのですけれども、ちょっと立体的に見にくくなっていて恐縮でございます。

○清宮委員 それとあわせてなのですけれども、この図からするとすごく周囲が無機質との印象です。舗装面が全部コンクリートになっていますよね。こういうカヌー・スラローム会場というのは、私は本質的には自然に近い形で、先ほど言った護岸を整備するのが将来的にはいいのではないかと思います。普通の遊園地の水路みたいな感じになってしまっているのもうちょっと将来的には自然に近い形で護岸ができていると、非常にいいのではないかと思いますので、その辺は何か検討されたのでしょうか。

○花井施設担当部長 つくり方は、詳細はこれからなのですけれども、この水路の脇は運営のための通路をつくることになってございまして、そのつくり方ですとかその辺の詳細は、これから実施設計の中で詰めさせていただきたいと思っております。

○清宮委員 なるべく無機質にならないようにされたほうがいいのではないかと思います。

○花井施設担当部長 いただいた御意見を参考に、その辺検討をしていきたいと思っております。

○橋本座長 増田先生、ありましたらどうぞ。

○増田委員 このカヌーのスラローム会場というのは、国内初でしょうかね。江戸川区にこういうのができるというのはすごくうれしいなと思うのですね。ロンドンの大会後を見ても、ゴムボートで急流を下るラフティングがすごく市民の方々に愛されていて、皆さんが楽しく利用されていますよね。

質問なのですけれども、水中ポンプで流れをつくっていくわけですから、これをつくるだけではなくて、維持費といいますか、ランニングコストとかかかるのだらうなど。大体どのぐらいかかるものなのでしょうか。

○花井施設担当部長 今の段階ですと、まだ基本設計の段階でございしますので、大まかな

性能とかを、どういう性能のものを入れるのがいいかということで、そういう比較検討をしている段階です。これから進めてまいります実施設計の中で具体的に決めていくようになりますので、現段階ではその維持管理費が幾らかというのがまだお示しできない段階でございます。また、お示しできるときにお示ししたいと思っております。よろしく願います。

○増田委員 ありがとうございます。

○深尾委員 御説明を伺っているとわくわくするような施設で、本当にこういうものができたら僕も見に行きたいと思うのですが、一番最初に審議事項ではなくて報告事項として、後利用の方向性の御説明をいただいたのですけれども、そこでの年間来場者目標が10万人とあるのですが、実際にカヌーとかなんかに乗る方はそんなにたくさんは乗れないでしょうけれども、この施設全体、レクリエーション利用も含めて、後利用年間10万人というのは、その維持費のことを考えても、もう少したくさんの都民がこれを享受できるような形にしないと、1,000万都民が10万人ずつだったら100年かかりますよね。数年のうちに都民の半分ぐらいが見てみたいというぐらいにならないと、やはり税金でつくるのですから。

なので、この後利用の計画書のほう、書き方も含めて、何を想定して10万人なのかも含めてですけれども、このままで外に出ないほうがいいかなと私は思いました。

○鈴木開設準備担当部長 後利用の目標値の10万人でございますが、これは各競技団体からのヒアリングとか、あるいは計画の策定を支援していただいている、ノウハウを持っている民間事業者へのヒアリング、そういったものをある程度積み上げて設定してございます。

それで、今お言葉にございましたように、例えばラフティング体験、1艘のラフティングに乗れるのが7人とか8人とかで、一遍に何十人、何百人楽しめる、そういう施設ではないという特性がございますが、そういった中で今後、いわゆる水上レジャー、例えばこのフィニッシュプールの穏やかなところで子供たちも遊べるような、そういう取り組みをさらに検討していくとか、あとは周辺の公園との連携が非常に重要だと考えております。周りの葛西臨海公園そして海浜公園は、年間300万人お客さんがいらっしゃいますので、今後そことの連携策をより一層考えていくことによって、この10万人をさらに増やしていくような検討を進めていきたいと考えております。

○橋本座長 ありがとうございました。工藤先生。

○工藤委員 今のお話にご答えてといたしますか、この葛西臨海公園の水族館や展望台を含め、谷口先生という素晴らしい世界的な建築家がつくられている、東京都の中でもかなりいい場所だと認識しております。そこと隣接してこの管理棟が建って、さらにこの管理棟に将来的にレストランなどもあるとなると、この管理棟の設計は相当なデザイン力のある人にやっていただかないと。東京都として相当気合いを入れて設計者を選び、素晴らしい建築をつくっていただくということは、葛西のこの場所全体のポテンシャルをすごく上げていくということだと思うのですね。

そういう視点からこのカヌー・スラローム会場を見たときに、競技の関係で制約があるのかもしれませんが、土木構築物でも今や擬岩をつかったりして自然な感じに仕上げていくということは、すぐ隣のディズニーランドを見たら何でもできるみたいなのところもありますので、計画に織り込んだほうがよろしいのではないかなと。このパースだと、いわゆるコンクリートの固まりみたいなものに見えてしまうので、工夫されるほうがよろしいのではないかと思います。

○橋本座長 はい、大分厳しいお話です。

○花井施設担当部長 葛西臨海公園全体が、デザインが非常にすぐれているというお話でございました。それと、あと自然に配慮したようなことも考えてほしいという御意見、本当にありがとうございます。

現在これは基本設計の段階でございますので、これから詳細は実施設計の中で取り組んでまいりますけれども、実際の競技施設としての機能も維持していかなくてはならない。あとコスト管理もしていかなければならないという中で、どういうことが可能なのかということを検討させていただきたいと思います。御指摘ありがとうございます。

○橋本座長 ほかにいかがでしょうか。

○射場本委員 カヌー・スラローム会場ですけれども、先ほどの後利用の10万人という話ですが、冬はほとんど使われませんね。前おいでいただいたときに、冬、スケート場というのもあるよねという話をしました。一部分でもいいから冬に何か使えるとうれしいなという感じがしています。

もう一つ、これは細か過ぎるのかもしれないのですが、管理棟について、先ほど工藤先生から立派な建築家に良いものをつくらせるという話がありましたが、7ページで言いますと、管理棟は真西を向いていて、水面からとのダブルで日射が来るわけですね。日射量的には相当厳しいので、その辺上手にやっていただく必要があるのではないのでしょうか。

先ほどから日射関係の話ばかりしてすみませんが、少し気になったので申し上げさせていただきました。

○橋本座長 何かありますか。

○花井施設担当部長 まず2つ含めてお答えさせていただきますけれども、後利用のほうですが、3ページの資料で、冬の利用ということでございましたが、現在いろいろそういう関係者等と調査をしているところですが、水難救助訓練ですとか、あと競技利用としてカヌーポロ等ということで、冬も使うことを現段階で想定しています。さらに利用ができるような方法を今後考えてまいりたいと思います。

あと建物の日射について配慮をということで、これから実施設計を進める中で検討させていただこうと思います。ありがとうございました。

○橋本座長 説明はいいですか。

○清宮委員 後利用のことですが、10万人利用するということと、いわゆる都民のレジャー・レクリエーションの場ということを見ると、ちょっと私もこだわりがあります。3ページのパスで、この水路というのは結構一般の人に開放できるかどうかというのを一度検討していただきたいと思っています。水量を少なくすると、例えば夏場でも使わないときに、子供だとか普通の人だったら水量と水位を調整すればあるエリアは子供たちが入って水遊びできる。安全上の管理はすごく重要だと思うのですけれども。ある特定のエリアはそういうふうに使えるようにして、少し水を流していろいろな遊びができるようなことにするといいのではないかと私は思っていたのですね。

そのときに、先ほど言ったあの壁の話があって、壁があるとそういうことのアクセスができないので、もしそういう利用を考えるのであれば、少なくとも緩傾斜護岸あるいは階段状にしておくとか、そういう工夫が必要ではないかなと思います。今どういう後利用を考えているのかということと、その護岸形式について検討していただければと思います。

○橋本座長 どうぞ。

○鈴木開設準備担当部長 まず後利用の考え方でございますが、資料2の3ページを御覧いただきたいと思いますが、今お話がございましたように、スラロームコース、いわゆる競技コースにつきましては、基本的に競技大会とかあるいはラフティングとか、そういうもので活用していくと考えております。

一方でフィニッシュプールのところにつきましては、資料2の3ページの運営の基本方針の2のところでは絵が描いてありますが、例えば人が入れるようなバルーンを浮かべて、

その中に子供たちが入って遊べるとか、そういった取り組み、水上レクリエーションというものをやっていきたいと考えておりますので、今御指摘いただいた護岸との関係等につきましては、施設整備のほうとよくすり合わせをしながら今後検討させていただきたいと考えております。

○橋本座長 ほかにいかがでしょうか。

それでは、次にアーチェリー会場に行きたいと思うのですが、アーチェリー会場のほうで御質問、御意見等ありましたらお願いします。

○清宮委員 土木施設関連でカヌー・スラローム会場の地震時の液状化の対策で経済的につくるという話と、ここのアーチェリー会場も他の工法に比べて非常に安い工法でつくるという御説明だったので、それについては非常にいいアイデアだなとは思っておりますので、さっきの水路とアーチェリー会場の土木工事はぜひこの方針でやっていただきたいと思えます。

○橋本座長 そういうことで、またいろいろお知恵を拝借しながらやってください。

○工藤委員 こういう競技場を整備するのに、先ほど幾つかの検討例を出されましたが、自然な形で時間をかけてつくっていくのもすばらしい方法だと思うのですが、実際今ここをどういうふうに使っているかという、保育園のお子さんとか、ここにたくさん集団で遊びに来たりして、これは円形になっているので子供が外に飛び出さなくて、親たちが上から見守っているという、実は湾岸地区のかなり人気のスポットなのですね。それがなくなるということになるわけだから、それに対してどういうふうを考えるかというのも、もちろんスポーツもありますが、ふだん使っている日常使いに対してどのように、どう答えていいやらと思ったのですが、それに対しては何かお考えがありますか。

○橋本座長 どうでしょうか。

○小野寺施設整備担当部長 確かにお話のとおり、あそこは円形のちょっと窪んだ感じで、実際コロシウムという名前で使われておまして、近所の保育園の人たちが遊んだり、寝転がってひなたぼっこしたりとかという使われ方をしておまして、ただ、今回確かに埋めてしまって平らな芝生にするのですけれども、後利用の方向性でお示しましたような、競技で使うということもありますが、そうでないときには大きな芝生広場ということで、公園利用者の今までの使い方と同じような使い方ができるようにしてまいります。

ただ、その円形が、窪地がいいというふうなお話ですと、なかなかそれを復元するわけにはいかないのですけれども、普段使い、大きな広場で公園として使っていただくことに

については、競技場として囲ってしまって一切ほかの方が入れないという使い方にはならないかと思っていますので、ふだん使いのほうにも配慮したやり方にはしたいと思っています。

○工藤委員 隣に陸上競技場があって、そういう使い方はあるわけですね。なぜこちらかというところを考えると、野原、原っぱというのが今すごく大切だと思うのですね。人工的にフィールドがきれいにできているからいいというだけではなく、こういう原っぱは子供たちにとっても自然だから、本当はそういう視点も含めた整備が大切なのではないかと。こういう円形の広場で、ちょっと窪地になっているところはなかなかないのですね。なくなるのは残念かなという思いが少ししております。

○橋本座長 ありがとうございます。

○増田委員 アーチェリーに関して、工藤さんの話と関係するかもしれないのですけれども、自然が豊かなので、自然環境の面からいきますと、例えば野鳥の会の方とか、そういう方々などへの対応もしっかりなさっていらっしゃるのでしょうか。

○橋本座長 いかがでしょうか。

○小野寺施設整備担当部長 具体的に自然保護団体というのでしょうか、そういう方々とお話ししているわけではないのですけれども、もともとここ夢の島公園の中には、夢の島アリーナA、Bという、バスケットボールとバドミントンの会場になる予定でした施設をつくるとか、それから馬術の競技会場ということで、3つというか4つの競技会場が計画されておったのですけれども、会場計画の見直しということで、結果的に夢の島公園ではこのアーチェリーの会場だけということになりましたので、公園全体の中でレイアウトを今考え直したところです。

その際には、当然ながら緑が豊かな公園になりますので、なるべくその緑をいじめることを少なくしようと考えておまして、陸上競技場については、これは決勝会場でございますけれども、全て仮設対応にしますので、大会が終わった後にはまた陸上競技場の形になる。円形広場は、円形ではなくなりますけれども、芝生の広場ということで大会後も競技で使ったり公園来場者が遊んだりというふうなスペースになるかと思っておりますので、自然環境の面でも我々としてはこの配置、レイアウトというものを検討した部分としては考えていたものでございます。

○深尾委員 円形広場は、私も御説明を伺って、これがなくなってしまうのと思ったのですが、大会が終わった後の東京都の財政事情にもよるとは思いますけれども、こういうと

ころの例えば札幌でしたっけ、モエレ沼公園みたいな、こういう、ただ、だだっ広いところだけでもちゃんとしたランドスケープをすると、すごく魅力的になる可能性もあるので、例えば大会後にランドスケープのコンペみたいなのを行って、さらに魅力的なスポットを東京都に増やすとかいうことも、ぜひ将来考えていただきたいと思います。そういう検討もぜひお願いしたいと思います。

○橋本座長 岸井先生。

○岸井委員 この円形広場のところについては、アーチェリーをおやりになっていらっしゃる皆さんとよくお話し合いをしていただかないと、本当にアーチェリーだけのために使われるということになりかねない。アーチェリー用につくったのだからということ非常に懸念いたします。あらかじめ将来の夢の島公園のビジョンというのをここでもう一度つくり直して、将来こういうふうにするのですよということを出すタイミングではないかと思えます。すぐに絵を全部きれいに描かなくてもいいとは思いますが、BumB自身もかなり老朽化が進んでいてつくり変えようかと思っていたこともあるわけですから、本当はこの地区にかかわらず、もう少し広いエリアで夢の島公園全体を見渡していただくのをぜひおやりになるべきタイミングではないかと思えます。

○橋本座長 はい、ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

今のアーチェリーのことで、私が言うのはあれですが、後利用の方向のところだと、やはりアーチェリーが主体という感じで、先ほど資料2のほうの御説明ですと、アーチェリーの本拠地にするのですよみたいな感じで私は受け取ったのですが、それと今いろいろな委員の先生から出ている話と若干ずれているかなという感じがするのですが、その辺何かございますか。

○鈴木開設準備担当部長 このアーチェリー会場につきましては、今この後利用のさまざまな検討を進めているところでございます。先ほど御説明の中では、アーチェリーを中心としながらという御説明をいたしました。さまざまな競技団体へのヒアリング等を通じて、一定の大会のニーズというのがあることは確認しております。それは多分土日を中心になると考えておりますので、多分後利用の形とすると、土日はそういう大会、平日は芝生広場という形で一般市民の方に御利用いただくという形が1つ考えられると思えます。

○橋本座長 ありがとうございます。という考えのようですが、岸井先生。

○岸井委員 うまくやらないともめると思えます。お互いに思いが食い違っていて、芝生広場ができると思っていた方も随分いっぱいいて、結局使えなかったという話になるとも

めるし、アーチェリーの方も当然我々が使うのだと思っていたのという話になるので、ある程度ルールを早目におつくりにならないといけないのではないかなという気がしますね。多分ここだけの話ではおさまらなくなる気もするのです。少し考えていただいたほうがいいかと思います。

○橋本座長 工藤先生、何かありますか。

○工藤委員 湾岸地区の居住人口が今すごく増えてきている中で、かなり若い世代が高層マンションに住んでいて子育てをしている。そうすると、共働きが増えている中で、土日に家族で近隣の公園に行くというニーズがものすごく高いのですね。ですから、そのあたりもしっかり考えていただき、もちろんスポーツの振興もあるけれども、オリンピック最優先だけではなく、その後利用を含めたときに、今回の湾岸地区あたりの、日常という生活の中でのスポーツやレクリエーション、選手だけではない一般の人たちの視線をしっかり入れて検討していただきたいと思います。

○橋本座長 ほかの先生方、いかがでしょうか。射場本先生、いかがですか。

○射場本委員 ストンサークルみたいな、まさに凹んでいるところですね。これがなくなるというのですけれども、平らになった後、周りに土手を盛るかとかいろんな話がまた出てくると思うので、興味津々に見させていただくということでしょうか。先ほどモエレ沼公園の話もありましたし。

○橋本座長 清宮先生ありますか。

○清宮委員 特にこれ以上ありません。

○橋本座長 増田先生ありますか。深尾先生、どうですか。

いろいろなレガシーも、競技そのものを残すという方向ももちろん大事ですし、ただ、全部競技のほうへ行っちゃっていいのかという、今現在の利用状況とどうやってつないでいくかというのも非常に重要なことだと思いますので、その辺も十分考えて進めていただければと思います。

それでは、これで今日の議事は一応おしまいになりますが、何か言い落した、聞き忘れたところがありましたら。

それでは、本日は活発に御意見をいただきました。追加の御意見等がありましたら、また事務局のほうへお話しいただければと思います。本日の御意見については、今後、実施設計及び工事にできるだけ反映いただければありがたいと思います。その結果については、次回の会議でまた御報告いただければと思います。

それでは、本日の議事を終了いたします。あと事務局にお願いします。

4 その他

○根本大会施設部長 ありがとうございます。それでは、事務局から今後の予定等について説明をさせていただきます。

○花井施設担当部長 本日は長時間にわたりまして、ありがとうございます。いただきました御指摘や貴重な御意見をしっかりと踏まえさせていただきたいと思えます。これから実施設計に取り組んでいきたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

なおアーチェリー会場につきましては、この後、盛土工事の入札公告を行いまして、契約後本年9月ごろから工事に着手する予定でございます。

先週から2回にわたりまして御審議を賜りましたけれども、このたびの会議で使用しました資料につきましては、明日東京都オリンピック・パラリンピック準備局のホームページに掲載させていただく予定でございます。

また、会議の内容につきましては、事務局にて議事録の案を作成した後に、委員の皆様に御発言内容を確認させていただきたいと考えてございますので、御協力のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。皆様の御確認をいただいた後に、当局のホームページに議事録として掲載してまいりたいと考えてございます。どうぞよろしく願いいたします。

○根本大会施設部長 最後に、私のほうから次回の会議についてでございます。本日御説明いたしました4施設の設計の進捗状況を見ながら、次回の開催時期を考えてまいりたいと考えておりますので、改めての御連絡とさせていただきたいと存じます。

それでは、以上で本日の会議を終了させていただきます。

本日はお忙しい中、まことにありがとうございました。

午後7時35分 閉会